

**使用説明書**

動物用医薬品

使用前に必ず本使用説明書を読み、注意事項を守って使用して下さい。

日生研C-78・IB生ワクチン

(鶏伝染性気管支炎生ワクチン (シード))

[製法及び性状]

本剤は、弱毒鶏伝染性気管支炎ウイルス C-78・P3 株を SPF 鶏群由来発育鶏卵で増殖させ、その感染尿膜腔液に安定剤を加え、凍結乾燥したのち減圧下で封じたものである。淡黄色の乾燥物で、日局の滅菌精製水を加えて振り混ぜると容易に溶解し、透明な淡黄色の均質な液体となる。

[成分及び分量]

ワクチン 1,000 羽分中

発育鶏卵培養弱毒鶏伝染性気管支炎ウイルス C-78・P3 株 (シード)	10 ^{6.0} EID ₅₀ 以上
乳糖	100mg
ポリペプトン	100mg
D-ソルビトール	50mg
ポリビニルピロリドン	3mg
ベンジルペニシリンカリウム	200単位
硫酸ストレプトマイシン	200 μ g (力価)

1 本3,000 羽分の場合は上記成分の3 倍量となる。

[効能又は効果]

鶏伝染性気管支炎の予防

[用法及び用量]

ワクチンを日局の滅菌精製水を用いて 1,000 羽分の場合は 30mL に、3,000 羽分の場合は 90mL に溶解する。

点鼻又は点眼接種の場合は、溶解したワクチン液を日生研点眼点鼻容器を用いて 1 羽当たり 0.03mL 宛接種する。

噴霧投与の場合は、溶解したワクチン液又は必要に応じて更に滅菌精製水を用いて希釈し、スプレーヤーで投与する。なお投与は 28 日齢以降に実施する。

飲水投与の場合は、鶏の日齢に応じた量の飲水にワクチンを直接溶解し投与する。

参考：飲水投与の場合溶解する飲水の標準量 (季節によって増減可)

鶏の日齢	4 日齢	14 日齢	28 日齢	2 か月齢	
ワクチンを溶かす飲水の量	1,000 羽分	5L	10L	20L	40L

[使用上の注意]**(一般的注意)**

1. 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
2. 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
3. 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
4. 本剤はシードロットシステムにより製造され、国家検定を受ける必要のないワクチンであるため、容器又は被包に「国家検定合格」と表示されていない。

(使用者に対する注意)

1. 誤ってワクチンが眼、鼻、口等に入った場合は直ちに水で洗浄すること。必要があれば本使用説明書を持参し、医師の診察を受けること。

本ワクチン成分の特徴

微生物名	抗 原		アジュバント	
	人獣共通感染症の当否	微生物の生・死	有無	種類
鶏伝染性気管支炎ウイルス	否	生	無	

本ワクチン株は、人に対する病原性はない。

本ワクチンに関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

日生研株式会社 製品係 〒198-0024 東京都青梅市新町9丁目2221番地の1
TEL 0428-33-1009、FAX 0428-31-6696

2. 作業時には防護メガネ、マスク、手袋等の防護具を着用し、眼、鼻、口等に入らないように注意すること。
3. 作業後は、石けん等で手をよく洗うこと。

(鶏に対する注意)**1. 制限事項**

- (1) 本剤の投与前には健康状態について検査し、重大な異常 (重篤な疾病) を認められた場合は投与しないこと。
- (2) 鶏が次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、投与の適否の判断を慎重に行うこと。
 - ・元気消失、食欲不振、発熱、下痢、呼吸器症状など臨床異常が認められるもの。

- ・ 疾病の治療を継続中のもの又は治療後間がないもの。
 - ・ 明らかな栄養障害があるもの。
 - ・ 他の薬剤投与、導入又は移動後間がないもの。
- (3) ワクチン投与後は、飼育管理に十分に注意し、鶏に与えるストレスの軽減に努めること。

2. 副反応

ワクチン投与後に呼吸器症状が見られる場合がある。

3. 相互作用

- (1) 本剤には他の薬剤（ワクチン）を加えて使用しないこと。
- (2) 本剤とニューカッスル病生ワクチン又は鶏伝染性喉頭気管炎生ワクチンを同時に投与するとウイルス間の干渉作用により、両ワクチンの効果が抑制されることがあるので、1週間以上の間隔をあけること。
- (3) 鶏伝染性気管支炎ウイルスには多くの血清型がある。異なった生ワクチン株を使用するときは、干渉作用が見られることがあるので、2週間以上の間隔をあけること。
- (4) 本剤投与前後24時間は、消毒剤や他の薬剤の使用を控えること。

4. 適用上の注意

- (1) 移行抗体価の高い個体では、ワクチン効果が抑制されることがあるので、投与時期を考慮すること。
- (2) ワクチンの調製時には、清潔な用具を使用し、各々の投与方法に定められた方法に準じて均一なワクチン溶液とし、雑菌などを混入させないこと。
- (3) 本剤の投与方法には、飲水投与方法、点眼・点鼻及び噴霧接種法があるので、各投与方法の注意事項を守って正しく使用すること。

飲水投与する場合

- ・ 飲水投与に用いる器具は、消毒薬を含まないきれいな冷水で洗浄すること。飲水に水道水を用いる場合は、あらかじめ煮沸、汲みおき、脱脂粉乳添加（0.2%）あるいはチオ硫酸ナトリウム（ハイポ）添加（0.01～0.02%）などの処置をした後、使用すること。
- ・ 鶏に均等にワクチンを投与するために、全部の鶏が均等に飲めるように十分給水器を準備すること。
- ・ 鶏に均等に投与するために、投与前2～3時間断水し、ワクチン溶液は2～3時間で飲みつくされるように調製し、ワクチン溶液がなくなってから、通常の飲水にもどすこと。

点眼・点鼻接種する場合

- ・ 点眼（点鼻）に用いる器具は、規定のものを使用すること。
- ・ ワクチンを接種する際には、鶏を保定する手指を消毒し、鶏の眼に触れないこと。点眼点鼻用器具の先端が、鶏の眼瞼に接触すると、菌の二次感染の原因となるので注意すること。
- ・ 点眼（点鼻）時には、1羽当たり1滴ずつ確実に点眼（点鼻）し、ワクチン液が鶏の眼（鼻）に吸収されるのを確認して、鶏を放すこと。

噴霧接種する場合

- ・ 噴霧接種は28日齢以上の鶏で、かつ2回目以降の（基礎免疫された）鶏群に実施すること。
- ・ 噴霧器の消毒には、消毒剤を使用しないこと。
- ・ 噴霧接種する前に、あらかじめ噴霧量、時間、粒子の大きさ等を調整し、最適条件で使用する。
- ・ 噴霧接種する際には、ワクチン接種する対象鶏群の全部の鶏に均等に噴霧すること。
- ・ 噴霧接種する際には、なるべく鶏舎内の空気の流れを止めて、鶏舎外への流出を防ぐこと。ただし、夏期には舎内温度が過度に上昇しないように注意すること。
- ・ 噴霧接種により、他の鶏群が噴霧粒子を吸入するおそれがあるので、隔離などの処置をして十分に注意すること。
- ・ 長時間にわたる噴霧は噴射口の温度が上昇し、効力低下を招くので注意すること。

【取扱い上の注意】

1. 乾燥ワクチン瓶内は真空になっており、破裂するおそれがあるので強い衝撃を与えないこと。
2. 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
3. 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
4. 開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので注意すること。
5. 溶解は使用直前に行い、溶解後は速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
6. 使い残りのワクチン及び使用済みの容器は、消毒又は滅菌後に地方公共団体条例等に従い処分、若しくは感染性廃棄物として処分すること。用いた器具や器材は消毒後水洗いすること。

【保管上の注意】

1. 小児の手の届かないところに保管すること。
2. 直射日光又は凍結は、品質に影響を与えるので避けること。

注意—獣医師等の処方せん・指示により使用すること

【貯法及び有効期間】

1. 遮光して、10℃以下に保存する。
2. 有効期間は、製造後2年3か月間である（最終有効年月は外箱及びラベルに表示）。

【包装】

1本 1,000羽分 3,000羽分

〔2013年7月改訂〕

日生研株式会社
東京都青梅市新町9丁目2221番地の1

1306SK30